

| | | | | | |
|------|-------------------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名 | 対1)教養特講 (7つの習慣入門) | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 西尾 範博 | 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 3時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 1年生 |

主題と概要

この授業は、ステイブ・R・コヴィー著『7つの習慣』をもとに7つの習慣について学び、次の7点について理解を深め、日常生活で実践し身につけるきっかけを提供することを主題とする。主体性を発揮して物事に対処する、目的をもって日々を過ごす、重要事項を優先する、win-winの人間関係を構築する、まず相手を理解しよう努め、その後自分を理解してもらおうようにする、違いを認めあい相乗効果を生み出すコミュニケーションをとりあう、肉体的、社会的、知的、精神的側面という4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の再生再生を図ること、このうちを身につけることにより依存的な人間から自立した人間に、を身につけることにより自立した人間同士による相互依存的な関係を築くことのできる人間に成長するとされている。この授業では、社会人になる前の4年間を過ごす大学生にとって日々の生活の充実につながる有意義な学びの連続となることを目指したい。

到達目標

- (1) 第1から第7までの習慣について理解を深めている
- (2) 主体性を発揮して自主・自立の精神を身につけている
- (3) 自ら目的・目標をもって物事に取り組むことができる
- (4) 物事に優先順位をつけて効果的な時間管理を行うとともに重要かつ非緊急な事項を着実に実行することができる
- (5) Win-winの人間関係を考えることができる
- (6) 日常生活において、自分の考えや気持ちも、他人の考えや気持ちを尊重してコミュニケーションを円滑にすることができる
- (7) 相乗効果を生み出すことができる
- (8) 人間の4つの基本的ニーズをバランスよく満たして自己の「再生再生」を図ることができる

提出課題

毎回の授業中に示す課題に関するレポートの作成と提出を予定している。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回の授業で課されたレポートの内容を次の授業の冒頭で話題にし、講評や補足説明等を行って前回の授業内容を振り返り、さらに理解を深める機会を提供するとともに、その日の主題に取り組む基礎となるようにする。

評価の基準

担当教員の講義や学生同士のディスカッション、グループワークにおける積極性、主体性などの毎回の授業に取り組む態度(40%)と、提出課題レポートの出来ばえ(60%)をもとに評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この授業では、教室内で得た知識や知見を教室内での学びで終わらせることなく、自身の実際の日常生活における新習慣の形成に役立て、自身の大学生活を充実させるぞという積極的かつ主体的な学習態度が求められる。授業中の教室でのディスカッションやグループワークはそのための学びの機会であり、自身の日常生活で実践するためのリハーサル機会として熱心に取り組むことが求められる。

| | | | | | |
|-----|---------|--|--|--|--|
| 教科書 | .使用しない。 | | | | |
|-----|---------|--|--|--|--|

| | | | | | |
|------|------|--|--|--|--|
| 参考図書 | .なし。 | | | | |
|------|------|--|--|--|--|

その他

授業中に随時プリント資料を配布し、参考文献を適宜紹介する。

授業計画

1. 「7つの習慣」の全体概念と主要概念 (習慣、人格主義と個性主義、関心の輪と影響の輪)
2. 「7つの習慣」の主要概念 (コントロール可事項とコントロール不可事項、パラダイム転換1)
3. 「7つの習慣」の主要概念 (パラダイム転換2、アウトサイドインとインサイドアウト)
4. 「7つの習慣」の主要概念 (インサイドアウトの分かち合い)
5. 「7つの習慣」の主要概念 (パラダイム転換3、主要概念のまとめ)
6. 第1の習慣「主体性を発揮する」、第2の習慣「目的をもって始める」
7. 第3の習慣「重要事項を優先する」1
8. 第3の習慣「重要事項を優先する」2
9. 「私的成功」(第1-第3の習慣)
10. 第4の習慣「Win-winを考える」
11. 第5の習慣「理解してから理解される」1
11. 第5の習慣「理解してから理解される」2
13. 第6の習慣「相乗効果を生み出す」
14. 第7の習慣「刃を研ぐ」、「公的成功」(第4-第6の習慣のまとめ)
15. 「私的成功」と「公的成功」(全体の振り返り)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア:PBL(課題解決型学習) | イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態) |
| ○ウ:ディスカッション、ディベート | ○エ:グループワーク |
| オ:プレゼンテーション | カ:実習、フィールドワーク |
| キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合) | |

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業で配布された学習用教材資料の内容を1時間かけて復習するとともに、学んだことを次の授業までに3時間以上かけて自身の日常生活で実践し、学びを深めることをもって次の授業に備えることを課す。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである、「本アカ、のびのび、へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる情報収集力、情報分析力、課題解決力、構想力を持った人材、創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材、自主・自立の精神を持って課題に主体的に取り組む、解決に結びつけることができる人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることが出来る人材を育成することに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内容を理解するだけでなく日常生活において実践しながら学ぶということの連続となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げることに加え、授業中のディスカッション、グループワークの発表を通して、学生と教員の間での高い双方向性をもって進め、その過程で到達目標の一つずつ達成されることに努めたい。また、レスポンスを使って学生の考えや学びの成果を即時に共有し、学生の学びをさらに深める機会を提供することも行う。

実務経験の有無及び活用

| | |
|----|---|
| 備考 | 毎回の授業から多くのことを学ぼうとする意欲のみならず、学んだことを自らの日常生活において実践し、役立てようとする姿勢が強く求められる。 |
|----|---|